

第 9 回富山県地域交通戦略会議 議 事 録

日 時： 令和 7 年 12 月 17 日（水）10：30～12：00
場 所： ANA クラウンプラザホテル富山 3 階鳳

1 開会

2 挨拶

●新田知事

おはようございます。

師走に入り何かと皆様、慌ただしいことかと思いますが、ようこそお集まりいただきましてありがとうございます。

さて、委員の皆様のお力添いをいただきまして、今年の 2 月に策定しました「富山県地域交通戦略」ですが、地域交通サービスを地域の魅力・活力に直結する公共サービスであると位置付けて、自治体、県民の役割をそれまでの事業者への側面支援から、「参画」そして「投資」をする主体にかじを切ったわけです。

また、この戦略では、県民 1 人あたりの地域交通の利用回数を 50 回まで、令和 10 年までに伸ばしていこうということを目指の一つにしております。後ほど事務局から詳しい説明をしますが、着々と、一步一步、増えていることを後ほどご報告させていただきます。

本日は、この「投資」、そして「参画」の両面の取組状況についてご報告をさせていただきます、それぞれの目標がさらに達成に近づけるように改善・強化に向けて、皆さんにいろいろなお知恵をまたお借りできればと思っております。どうかよろしくお願いします。

なお、最後になりますが、この委員のお一人として、地域交通戦略の策定に大変にご尽力いただきました長尾先生が去る 8 月にご逝去されました。心からご冥福をお祈りしたいと思います。

以上でございます。ありがとうございました。

3 議事

●石井会長

皆さん、おはようございます。会長を仰せつかっております石井晴夫と申しますので、よろしくお願い申し上げます。

先ほど新田知事からもお話がございましたように、長尾先生が 8 月にご逝去されたというご一報をいただきまして、本当にびっくりしております。長尾先生とは長い間、富山県で様々な委員会等々でご一緒させていただきました。マーケティングがご専門で、富山県の観光客の誘致から、県民・市民の皆さんのモビリティの確保、富山県の魅力づくりなど様々な観点から、長尾先生は有意義なご提案や方向性を導き出してくださいました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

「サービス連携高度化部会」の部会長であった長尾先生のご逝去に伴いまして、後任として、これまで本部会に大変なご尽力、ご協力を賜って議論の経緯を本当によくご存じの品川委員を、本会議の設置要綱等に基づきまして、私の方から部会長としてご指名させていただきます。品川部会長には引き続きよろしくお願い申し上げます。

それでは、着座にて議事を進行させていただきます。

昨年 2 月に富山県地域交通戦略を策定し、現在、ウェルビーイングの向上をもたらし最適な地域交通サービスの実現を目指して、戦略に基づく取組みが鋭意進められているところです。

本日の全体会議では、戦略策定後の取組状況や、戦略の目標の進捗状況について、事務局からご報告いただく予定です。また、本日の会議に先立って、すでに 3 つの部会が開催されていますので、各部会での議論も報告してもらう予定です。

これらの報告をいただいた後に、委員の皆様から「投資」と「参画」を促すためのさらなる取組みについて、ご議論を賜りたく存じます。

それでは早速でございますが、事務局より一括してご説明をお願い申し上げます。

●事務局

(資料 1～3 に沿って説明)

●石井会長

どうもありがとうございました。

事務局におかれましては、様々な観点からしっかりと取りまとめをいただき、心から感謝申し上げます。また 3 部会の皆様にも心からお礼申し上げます。

ただいま事務局からご説明いただきました通り、さまざまな取組みが行われていますので、本日は、戦略の目標達成に向けた「投資」と「参画」を促進するための取組みについて、さらに強化・改善した方が良い点などがございましたら、委員の皆様から具体的にご意見、またご提案を賜りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

各部会長におかれましては、各部会の議論についての補足や、他部会の関連施

策、あるいは議論等を含めて、追加のご意見がございましたら、その都度ご意見をいただきたいと存じます。また各部会にご出席の委員の皆様には、他部会の関連施策や議論を踏まえて、改めてご意見をいただきたいと存じます。その他の委員の皆様には、これまでの取組みや今後検討していることがございましたら、あわせてご紹介いただければ幸いです。

時間の都合もございますので、大変恐縮ですが、私から指名させていただきます委員の皆様から順にご発言をお願い致します。できるだけ多くの委員の皆様からご発言いただくために、ご発言はおよそ 3 分以内でお願いできればありがたいと思います。

それでは早速ですが、「鉄軌道サービス部会」の部会長の宇都宮先生、よろしくお願い申し上げます。今日はオンラインでご参加とのことでございます。先生よろしくお願い致します。

●宇都宮部会長

「鉄軌道サービス部会」部会長の関西大学の宇都宮でございます。オンラインで失礼させていただきます。

「鉄軌道サービス部会」についてですが、先ほどたくさんのご報告がありました「鉄軌道サービス部会」のいろいろな取組み、先ほど示された意見の中にもありましたが、普段使っていない人、利用していない人に対する働きかけが非常に重要だという意見を皆さんお持ちでした。

富山県は相応の人口集積があり、それなりの人が住んでいる、こういうところであれば、公共交通をまだまだ使っていない、あるいは使おうと思っても使えていない人たちがいるわけであって、そこを鉄軌道もバスもそれ以外の二次交通も含めて、うまく掘り出していく、こういうことがやっぱり今後に必要なんじゃないかなと。潜在需要は十分あると考えるべきだと、私自身感じているところでございます。

それから「鉄軌道サービス部会」ということで個別の事業の話はメインテーマではないのですが、やはり昨今の富山地方鉄道の存廃議論というのも議論になりました。結論から言えば、この戦略会議でもきちんと言ってる通り、公共交通とは公共サービスであると。そういう意味で 1 民間事業者が赤字継続したままやるというのは、やはり適切ではないということを踏まえ、存廃の議論はあるわけですが、この富山地地方鉄道というネットワークについては、しっかりと時間をかけて議論していく必要があるということで、部会で議論があった、ここもご紹介させていただきます。

いずれにしてもまだまだこれからやることあると思うのですが、富山県のポテンシャルを活かした形で戦略を進めていくことが必要なのではないかとを感

じている次第です。

以上でございます。

●石井会長

どうもありがとうございました。

それでは同部会の委員で富山大学の本田先生、引き続きよろしくお願い申し上げます。

●本田委員

富山大学の本田でございます。ごく簡単にご意見のほうお伝えしたいと思います。

私もこの「鉄軌道サービス部会」に参画させていただいていて、この「富山県地域交通戦略」の策定以降少しずつかもしれませんが、関係者の方々がそれぞれ取り組みを進められていることを改めて認識しております。

先ほど知事からのお話がありましたように、「投資」あるいは「参画」という考え方の元に、さまざまな関係者が地域公共交通に対する役割を担うということで明記されていますので、私も日頃から、主に県の西部地域において、交通まちづくりの実践というのをやっているところでして、「投資」に取り組まれる自治体や行政の方、「参画」を担う県民や企業の方の橋渡しをするような役割の意識で活動しています。

実は一昨日も、高岡の駅前で第一線を退かれた高齢者の方が40～50人集まる会合がございまして、そちらで地域交通戦略や、城端線・氷見線の再構築についての話をさせていただきました。高岡駅前で開催でしたが、参加者の9割以上の方が車で来られているという状況でして、実際は大変厳しいのかなと感じたりしています。特に交通行動というのは習慣ですので、この習慣を変えるというのはなかなか難しいということを改めて思いました。

先ほど資料2でご紹介いただいたのですが、私の学科の学生たちが自分たちのアイデアで公共交通の利用促進を図りたいということで取り組んでいます。この秋はあいの風とやま鉄道、去年から富山地方鉄道の方でイベントをすることによって、普段公共交通に乗らない方々に何とか楽しんでもらうという取り組みをしており、こういった取り組みももっともって続けていきたいと思っております。できれば今後は、各鉄道駅の周辺のおでかけマップを作成し、鉄道の利用促進を図ることもしていけたらと思っているところです。

それから高校の授業の話もありましたが、普段から鉄道利用しているユーザーの意見を何とかして吸い上げることが、「参画」の機会を作るという意味でも、関心を高めていく意味でも、今後が必要と思っているところです。

以上でございます。

●石井会長

ありがとうございました。

続きまして、「地域モビリティ」部会の部会長でございます、富山大学の太西先生、それではよろしくお願いします。

●大西部会長

「地域モビリティ部会」を担当させていただいております富山大学の太西です。

「地域モビリティ部会」では、先日行われた部会で非常に面白かったのが、SMART ふくしラボさんという団体から黒部市で実施している事業についての報告をいただいたのですが、そこでは、住民の皆さまの普段の行動、例えばどこに買い物に行くのか、どういう手続きで行くのか、その移動時にどういう不都合があるのか、そういうものをこと細かくワークショップの形式でどんどん情報収集していて、それを可視化するということでした。可視化をすることで、皆さんのニーズが一体どういう形で存在するのかが分かるとか、現状がどういう形になっているのかが分かる。ですから、徹底した情報・エビデンスを収集するのと、それを可視化して共有することが、まず本当に重要な第一歩なのだなというところがありました。

また、「投資」と「参画」というところから地域交通について取り組んでいくという既に大枠の戦略はある程度立っていて、また目標も立っているのですが、ではその戦略を実現するに当たって、いま何が欠けているのかという時に、「参画」をする人たちの心をどう転換するのか、先ほど本田先生からも習慣をなかなか変えるのは難しいという発言がありましたが、すべての習慣を変えろというわけではなく、公共交通に対して一部でいいので心が転換されるとか、それから自分であればこういうことに役立てるかもしれないという、「参画」に少しでもいいから転換するような取組みが本当に必要なんだろうと。

そこは人を説得するもの、言葉でどうやって伝えていって、例えば、「あなたたちはこういうことができますよ」というところを細かな形で説明をしていくといったような、人の心をうまく転換させる取組みが現れると、地域交通、地域モビリティに関する人々の意識が変わっていく可能性があるだろうと。

大枠の戦略や大きなビジョンはある程度立っていて、そこに「投資」と「参画」というのがあるんだと。「投資」はさまざまな枠組みで随分行われてくるようになったが、「参画」の部分では、いかに人々の心を変えるのか、戦略ではなく戦術がこれから必要とされるということが、地域モビリティ部会の中ですごく印

象的な議論でした。ですので、人の心をどう変えるのかが、地域交通のこれからを考える重要なところであるというのが、地域モビリティ部会の中で出てきた結論でありました。

私からの報告以上です。

●石井会長

ありがとうございました。

それでは続きまして、同部会の委員、モビリティジャーナリストの楠田委員、よろしくお願いします。

●楠田委員

楠田です。オンラインでどうぞよろしくお願いします。

私も先ほど話にあったように、困っている人が誰なのか、その方がいつ買い物に行って病院に行っているのか、その経路はどうなっているのかということをもっとしっかり把握する必要があると前々から思っていました。

今後ですが、KPI を設定する際には、困っている方をゼロにするという目標設定が大事になってくると思っております。やはりデマンド交通や他の移動手段を見ていると、やはり手段が目的化してしまうような状況も多いかと思っておりますので、そこに気をつける必要があると思います。

また公共交通の主な利用者は誰かということで、高校生が多いかと思っておりますので、高校生の方にとっての利便性をしっかり上げていく、その方の声を聞く、一緒に作っていくということで、それを毎年、高校進学の時とか入学時とかに、どういう経路で通学されているかをしっかり把握しながら、それを交通計画に活用していくことも大事になってくると思っております。

以上でございます。

●石井会長

ありがとうございました。

それでは同部会の畠山委員、引き続きよろしくお願い申し上げます。

●畠山委員

ありがとうございます。

今、大西先生からおっしゃっていただいたように、人の心が動く、これが本当に大事なのではないかと思います。今日は「投資」と「参画」のフェーズでどうやっていくかという話だと思いますので、例えば地域交通においては、交通空白の「緊急対策本部」などの名称が用いられることが多いですが、住民目線で

心が動く名称、発信のあり方も工夫することが求められると思います。

そうした時に、今日さらにさまざまな事例を共有いただき、よりそう思いましたし、例えば富山県庁はウェルビーイングを掲げているわけですし、人の移動と交流によって、みんなの何が豊かになっていくのかという、その風景も「参画」したくなるような、心が動くような工夫を立てない限り、せっかくいい戦略ができたのに次の断面に行けないではないかというふうに思います。

ですので繰り返しですが、人が移動して交流することにより、暮らすだけで元気になる県を目指していくといったことを掲げながら、一つ一つの営みを作っていくことが大切だと考えます。例えば今日もたくさん事例を共有いただきましたが、結果として利用いただいた事実は共有されましたが、使っていない人の心がこうやって動いている、人の気持ちがこうなったという、「人」を真ん中とした視点で共有をさらに深めていただけると、誰のために議論していて、誰のための戦略なのかという話が明快になってくると思うので、こういう場でのレポートも含めて、人がこう動いている、気持ちがこうなっているという、そこに軸足を置いて、私もプレイヤーとして「参画」したいと思いますし、皆さんと一緒にそのような形の世界を目指していきたいと思います。

以上でございます。

●石井会長

ありがとうございました。

それでは「サービス連携高度化部会」のトヨタモビリティ富山の品川部会長、よろしくお願い申し上げます。

●品川部会長

「サービス連携高度化部会」の部会長を拝命いたしました品川と申します。「富山 my route（マイルート）推進協議会」の会長も務めさせていただいております。

先ほどの資料のご説明伺いまして、公共交通の利用促進が進んでいること、利用者の方の公共交通に対する好イメージが進んでいるというお話があり、大変成果に結びついている喜ばしいことだと思っています。

また私どもが運営しています「my route」の利用拡大、利用人数・件数の増、デジタルチケットの販売増にも繋がっていて、大変嬉しく思っています。先ほどの資料にもありましたが、「my route」の昨年度のデジタルチケット販売枚数が、前年度の約 1.8 倍、15,000 枚と増加したこともあり、また企画チケットを除く各公共交通事業者様が通常販売しているチケットも昨年は 11,000 枚と月 1,000 枚近く販売できる状況となりました。また今年度に入ってから販売枚数は、昨

年度4月～3月とほぼ同数の11,000枚の販売が今年度4月～11月で既にもう立っており、キャンペーンチケットについても、先ほどご紹介があった「電車・バスで行こう！キャンペーン」の販売枚数も前年よりも伸びるという状況となっていて、公共交通の利用促進に、先ほど「心を動かす」という話がありましたが、何がしかのお役に立てているのではないかと考えております。

またダウンロード数においても、先ほど資料には33,000件とありましたが、今年度に入ってまた7,000件増えまして、11月時点で4万ダウンロードを超えており、どこかで公共交通利用率4%という数字を聞いたことがあるのですが、県内のヘビーユーザーの方々、公共交通を普段から積極的にご利用される皆様には、ほぼ普及することができたのではないかと考えており、そういったことを含めて利用拡大に繋がっているのではないかと考えています。

先日の「サービス連携高度化部会」で出た意見にもありましたが、今後のさらなる利用促進に向けては、ヘビーユーザーの方、普段から公共交通を積極的に利用される方々に、さらに利便性を提供するサービスと企画チケットを提供することにより、ライトユーザーの方々にも訴求することができるのではないかと考えておりますし、また企画チケットについて、カターレと連携した「サッカー×グルメ満喫バス往復チケット」も今年度に入ってから1,000枚近い枚数が売れていますが、イベント、様々な行事、文化施設、スポーツ施設を運営される方と連携して、その利用シーンがイメージでき、イベント主催者の方からも応援してもらえる、増販・拡販に協力してもらえる運営を目指していきたいと考えています。

また先ほど楠田委員からも発言がありましたが、やはり一番のヘビーユーザーは高校生だと思うので、将来高校生の皆さんが、車それから公共交通を両方使っていただけるまちづくり、地域づくり、学校との連携もそうですし、私どもは自動車販売も行っているのですが、車と公共交通が共生するまちづくり、社会づくりというものにも取り組んでまいりたいと考えております。

いずれにしても、いかに「参画」していただけるか、またいろんな事業者様、交通事業者様、経済活動を行っていらっしゃる方々、文化・スポーツ・地域振興に取り組んでいらっしゃる方々、いろんな方と連携しながら、私どもは「my route」を通じてですが、公共交通の利用促進に様々なプレイヤーに「参画」してもらえるプラットフォーム作り、プラットフォーム運営、あとサービス連携の高度化に今後も取り組んでまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

私から以上です。

●石井会長

どうもありがとうございます。様々な取組みを進めていただきまして感謝

申し上げます。

それでは続きまして、とやま観光推進機構の砂原委員、よろしくお願いします。

●砂原委員

個人や少人数のグループで旅行される方が増えていく中で、美術館や博物館等の文化施設とか、イベント・スポーツ会場へのアクセス向上というのは、県民そして旅行者にとって大変重要なことだと思っておりますし、また事前の認知度向上というのも大切な取り組みだと思っております。

昨日開催された県の文化審議会に出席した際にも、文化施設へのアクセスという点について、交通政策だからと縦割りにならず、施設側からも利用者の視点に立って交通アクセスについて考えていただくことを申し上げさせていただいた次第です。

あともう1点、雪が降ったときに電車・バスが来るのか、既に行ってしまったのか、運休しているのか分からないという利用者のニーズの中からバスロケーションシステム「とやまロケーションシステム」が生まれたと聞いておりますし、先駆的な取り組みだと思っております。ぜひ利用者のニーズを聞きながら、システムをアップデートして、また可能であれば、システムの利用状況を適宜解析・分析して、施策の立案に活かしていただければと思っている次第です。

以上でございます。

●石井会長

ありがとうございました。

それでは続きまして経済界、それからまた学校関係地域の方に移らせていただきます。

それでは最初に、商工会連合会の庵委員、よろしくお願いいたします。

●庵委員

ユーザーサイドからするとやはり、お得感があるかどうかということではないかと思います。

トヨタモビリティ富山の品川さんが一生懸命推進している「my route」、今月私ダウンロードしましたが、映画館のチケットが安くなるという記事が出て、じゃあ「my route」を入れてみようかと思いました。そういう意味で、お得感がこれだけあるという説明もあったわけですので、こうしたことが分かれば、必要な人たちは必ず公共交通機関を利用されると思います。

今日の説明で非常に感心したのは、色々な層に対して毎年繰り返し色々な働きかけをしているということで、1回限りの活動ではないということを知りまし

て、こうした活動が継続されているということが、公共交通機関への関心を高め、必要な人は必ず使うと。

利便性についても、昨日の「あいの風とやま鉄道利用促進協議会」でいろいろと聞きましたが、事業会社の皆様は大変ユーザー目線で改善を図っておられると私は思います。そういう意味で私は、目的はほぼ達成しているのではないかと、ですので不断の継続をしていくということがこれから一番大切ではないかと自分では思っています。

●石井会長

ありがとうございました。

それでは続きまして、富山県 PTA 連合会、松田委員、よろしくお願いします。

●松田委員

高校 PTA 連合会、松田でございます。私はずっとこの議論に参加していたわけではないので、今日初めて参加しました。

先ほどあったように、高校の地域課題探究の時間に高校生の意見を募るとか、高校生は公共交通がないと移動できませんので、そういう取組みをされている、高校生が地域課題について考える機会を与えていただけるとするのは非常にありがたいことだと思っています。またそれが地域交通への思いにつながっていく、いずれ車の免許を取る人もいるかもしれませんが、品川委員もおっしゃいましたが、車との共生を図る、そういう社会を目指していけばいいのかなと思いました。

ただ少し気になったのは、「人の心を動かす」と先ほどから議論として先生方もおっしゃっていますが、人の心は動くものなのかというのがあり、庵委員もおっしゃられましたが、そこにやはり「利」がないとなかなか行動に移らないのではないかと思います。

昨年仕事でサンフランシスコに行ったのですが、ほとんどのタクシーは無人なんですね。無人タクシーでほぼ完璧に移動できるわけです。私の両親も 90 才近くになってますが、10 年後どうなるんだろうという危機感を持ってまして、車がないと移動できない高齢者の方はすでにいらっしゃると思います、これからますます増えていく中で、高岡市では地域のコミュニティバスも廃止しましたし、高齢の方の足を確保していかないと本当にまずいのではないかと危機感を持った次第です。

ぜひ何か夢のあるテーマを与えていただければ、高校生たちも希望を持ってこれから高校を巣立って世界で活躍して、また地域に帰ってきて地元に貢献する人材が育っていくのかなと思いました。

以上です。

●石井会長

ありがとうございました。

続きまして、富山県老人クラブ連合会、有澤委員、よろしくお願いします。

●有澤委員

富山県老人クラブ連合会会長の有澤でございます。初めてこの会議に出席をさせていただきました。

先ほどからいろいろ説明を聞いていまして、非常に関心をしているところです。先ほど富山大学の本田先生から、高岡駅での高齢者を対象にしたイベントに50人の高齢者が集まりましたが、その9割が車でお越しになったということを書いておられました。

もちろん高齢者の方でも車を運転される方、たくさんおられます。でもこの方々がいずれ運転できなくなる時が必ず来るんですね。その時に高齢者の立場としてはどうあるべきかという、やはり公共交通は身近なものであるべきだろうと思っています。

もちろん身近なバス停、あるいは鉄軌道の駅、遠い方もおられると思うのですが、先ほど説明のあったデマンド型交通、デマンド型タクシーなど色々試されていると思うのですが、その進捗状況はどうなっているのか、大いに利用されているのかどうかということもこれから見ていく必要があるのではないかと思います。いずれにしても、持続可能な公共交通であってほしいと思いますし、高齢者が身近で利用しやすい公共交通であってほしいということを要望したいと思います。

以上です。

●石井会長

ありがとうございました。

事務局の黒崎課長、デマンド型交通の今の状況について、分かる範囲でご説明いただければありがたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

●事務局

ありがとうございます。

デマンド型交通については、各自治体の方で、これまでの決まった路線・決まった時間に運行するバスからの転換ということで、昨年度あたりから本格運行も始まっている自治体も増えてきています。

正確な数字とは言えないのですが、市町村にもご意見をお聞きした際に利用状況も確認しています。その中では、デマンド型の交通に切り替えることで、大幅な増加ではないですが、以前の定時定路線のバスよりも利用が増えているという傾向にあると考えています。

ただ、今実証運行している市町村もかなりありますので、もう少し状況は見ていく必要があるだろうと。ただデマンド交通によって自宅前まで来て目的地まで移動できるということで、サービスの向上にはつながっている、それで外出機会の増加にもつながっているという声はいただいておりますので、今いただいたご意見も踏まえまして、市町村とも連携をして、数字は確認をしていきたいと思っております。

●石井会長

ありがとうございました。

高齢化社会の中でモビリティもデマンド型に徐々に移行して、ドアツードアというものは益々公共交通機関に依存するところが増えてくると思いますので、そこも折に触れて事務局の方でフォローしていただいて、また県民の皆さんに情報提供いただければ大変ありがたいと思います。引き続きの展開をよろしく願います。ありがとうございます。

それでは交通事業者の皆様からご意見を賜りたいと思います。まず最初に、あいの風とやま鉄道の伍嶋委員、よろしくお願いいたします。

●伍嶋委員

あいの風とやま鉄道の伍嶋でございます。日頃から富山県と県内市町村の皆様、また関係団体の皆様には鉄軌道の利用ということで、本当にいろんなご支援をいただきまして感謝を申し上げたいと思います。

私ども鉄道事業を営むものとしては、一つは安全な運行、また安定運行ということを目指してまいりました。安定運行のためには、やはりたくさんのお客様に利用していただくということが大前提になりますので、そのために利便性を上げることに注力をしてまいりました。

今までいろいろな取組みが紹介されていますが、例えばソフト面ではパターンダイヤを始めとした便利なダイヤを組むこと、またさまざまな二次交通との連携も密にすること。またハードの対策としては、駅施設のバリアフリー化や、どんな方も駅が利用しやすくするための改装だとか、そういったソフトとハードの両面から取り組んできたところです。

また長期的には、やはり今後も少子高齢化という大きな課題がありますので、今後こうした公共交通がさらに利用されるためには、やはり利用者のニーズに

沿ったそういった取組みを加速していくことが大事だと思っています。先ほどご紹介いただきましたが、弊社では先週から利用促進アンケートということで、弊社の利用にあたってどういふことを改善すればもっと乗りたいくなるよとか、今まで乗ってなかったけれどもこういったことがネックになって乗れなかったとか、さまざまなニーズを把握するように今取り組んでいるところです。

そういう意味では、いろんなニーズもありますが、今まで乗ったことのない方に対していろんな働きかけをするということがさらに大事と思っています。そういう意味では先ほどご紹介のあった「電車・バスで行こう！キャンペーン」、こういったキャンペーンは今まであまり利用されなかった方に働きかけていく、強い動機付けになるのではないかと思いますので、私どももこういった取組みを一緒になって進めてまいりたいと思っています。

もう一つは、公共交通機関はもちろん移動の足なんですけれども、単なる移動だけではなく、乗ることによって地域との関わりができたとか、すごく楽しい思い出ができたとか、そういった「楽しみ」という要素も加えていければと思っています。今弊社ではプロスポーツとの連携ということで、それぞれのスポーツの試合開催日に割安のチケットを出したり、いろんな付加価値をつけていますが、改めてこういった楽しみを増やしていくことが必要かと思っています。

また地域資源について、弊社は3年ほど後に、城端線・氷見線の経営移管という大前提がありますが、特に沿線エリアの県西部地区のいろんな地域資源、食、伝統文化、あるいは豊かな自然だとか、改めて地域の魅力を大いにPRしていく、そういった取組みを重ねてまいりたいと思います。

最後になりますが、地域交通戦略について、本当に素晴らしい目標を立てて策定をされてますので、今後いかに進めるかということになると思いますが、先ほどからいろいろお話があったように、どうやって県民、あるいは県外からも、皆さんが押し寄せていただけるような取組みをするか、これはやはり大々的、もしくは大胆な、さらにキャンペーンを実施することが必要かと思っています。ツールとしては、MaaSアプリ「my route」、こちら本当に便利なツールでして、ダウンロードをすれば本当に、これでもかというくらいの便利な要素、いろんな県内の催し物とか、そういった紹介もされてまして、本当に使いやすいものになっています。こういったツールも活用しながら、改めて皆さんが、「公共交通機関は良いものだ」と思っただけのように、全体として取り組めるようなキャンペーンを、私どもも皆さんと協力して進めさせていただければと思っています。

以上でございます。

●石井会長

ありがとうございました。

それでは続きまして、JR 西日本金沢支社の川上委員、よろしくお願いします。

●川上委員

JR 西日本の川上でございます。平素より弊社事業にご協力賜り感謝申し上げます。

弊社としては、まさに城端線・氷見線の再構築が戦略の目標達成に大きく寄与していると考えていますので、確実に計画通り工事などを進めてまいりたいと考えています。また、「投資」と「参画」という点でも、この再構築事業はリーディングケースであると考えています。本日ご紹介のありました新型車両の発表や、小学生の体験乗車などを通じて、皆様の大きな期待を感じているところですし、このようにしっかりした沿線市様での議論がなされ、インパクトと期待感のあるプロジェクトが、心を動かし、新たな「参画」の機会に繋がっていると感じています。今後も皆様とさまざまな考えで連携しながら機運醸成を図りたいですし、この「参画」の流れが県域全体にも広がればと考えております。

弊社で申しますと、あと高山線がございます。これに関しましては、ブラッシュアップ基本計画が策定されていますので、この計画の深度化や推進にも活かすことができると考えております。

最後に、いよいよ 3 月 14 日に城端線・氷見線に交通系 IC「ICOCA」が導入されます。目標の達成に大きく寄与するものと期待していますし、ご利用開始に向けて、駅や列車内でのお知らせはもとより、地元の広報誌のお知らせや PR など、引き続き弊社だけでなく関係の皆様とも連携して、機運を高めながら確実に進めてまいりたいと考えております。以上です。

●石井会長

ありがとうございました。

それでは続きまして、富山地方鉄道の新庄委員、よろしくお願いいたします。

●新庄委員

富山地方鉄道の新庄です。よろしくお願いします。

資料にも大変多くの利便性の向上策が「投資」ということで進められるということ、さらに弊社の鉄道線の一部区間についても、大規模な「投資」が今検討されています。ただ一方で、それだけの「投資」が必要かどうかについても、費用対効果の観点で議論されていますし、大きな公金が投入されることになれば、成果に注目されるのは当然でして、理解があるのはもったもだと思っております。交通事業者としてそういった視点でお話させていただきます。

残念ながらこれまでの議論の内容からは、公共交通にある多くの効果に対す

る分析は、今のところ伝わってこないというふうに思っています。まずは便利にすることで公共交通利用が増えた、こういった成果があってようやくその「投資」に対する理解が深まるのではないかと考えておりますし、それが第一歩だと思います。なので、人口も減る・移動機会も減っていく、そういう状況の中で、便利にするだけではなかなか利用増が難しいというふうに、交通事業者として思っています。

そんな状況の中でも、その利便性の向上の効果が最大限に引き出されて、実際に利用が増える・人が動く環境を、関係者でどのように作っていくかが肝心だと考えています。これまでたびたび申し上げていますが、電車やバスの利用は、いかに便利であろうと、本来はやはり移動したい目的があって生じるもので、通勤や通学以外にも買い物・観光・イベントなど、移動を必要とする需要を作り出すことが大事で、是非この需要を生み出す環境は各々の自治体のまちづくりの中で特に重視していただければいいかなと考えております。

また利用増ということでは、これまで利用されなかった人にいかに利用していただくかということだと思っています。利用していない人は便利になったことは分かりづらいですし、そもそも移動に車利用が大前提な方は公共交通には興味がない、全く関心のないという方々が非常に多いはずで、今日の資料内の設問に対する回答からも分かりましたが、本当に思った以上に関心のない・分からないという方が多いです。せつかくこれから行う利便性向上の取組みが活きるためにも、電車やバスの存在を示すきっかけづくりというのがすごく大事で、それが利用につながる環境づくりの一つになると思っています。

このきっかけづくりについては、資料にも多くの施策が載っていますが、移動手段としては電車やバスを選ばないという皆様でも、乗ること自体で楽しめる電車・バスという企画、先ほど伍嶋委員からもご発言がありましたが、そういった企画もいいのではないかと考えていまして、弊社で最近実施しましたが、夕方から翌日早朝まで夜通し走る夜行の急行列車ツアーには、県内外から大変多くの申込みがございましたし、犬と一緒に乗車して市内電車を楽しむといった「ワントラム」、こういったものにも日頃電車やバスを使わない人、あるいは若者の多くの利用がございました。例えば、日頃特に公共交通を利用されない方々でも気軽にご利用できる一日乗り放題の大きなイベントなどを、沿線の自治体と連携して行うこと、そういったものも電車・バスに関心を持ってもらう良い機会となると思っています。

これまでの発言の中にもありましたが、このように公共交通を移動サービスという固定観念を持たずに、乗って楽しむというふうに考えていくことも、それが結果としては移動サービス利用者の増加、そしてこの戦略の目標達成にもつ

ながっているものと思っていますことをお伝えして、私の発言とさせていただきます。

●石井会長

ありがとうございました。

今のサービス高度化の重要性というのは本当にその通りでございますが、富山県は関東圏・関西圏からものすごくアクセスがいいのですが、もったいないのは、富山県の魅力・ポイント（セールスポイント）がなかなか見えてこない点です。

これを県内の利用者の皆さんと同時に、県外からの誘客もあわせて、ぜひ継続して発信していただければと思います。週末のみでもいいですからなんとかイベントの情報を発信していただいて、とりあえずは関東圏・関西圏のお客さんをこの素晴らしい富山へ、富山地铁に乗って黒部から宇奈月温泉に行きましょう、そしてあいの風とやま鉄道に乗って日本海の素晴らしい風景を堪能しましょう、城端線・氷見線も移管を契機に ICoca や電子マネーで乗車できるのです。今後の新しい電車のデザインも決まり、素晴らしい鉄道に生まれ変わります。

こういったことがなかなか大都市圏に届いてこない。なんとかセールスプロモーションをもっともっとこれでもかというくらいに取り組んでいただいて、富山県の魅力づくりをさらに進めていただければ大変ありがたいと思っております。ありがとうございました。

それでは富山県交運労協の金山委員、よろしくお願いいたします。

●金山委員

従事者の立場とすれば私一人ですので、少し皆さんと毛色の違う話になるかもしれませんが。ご勘弁をいただければと思います。

私の方からの一つは、例えば職場も生活空間というふうに申し上げますから、職場のトイレや休憩所などが、いろいろなご支援もいただきながらきれいになっていることについては非常に評価をしておりますし、働くものの立場からも過ごしやすくなったということを聞いています。まずこのことを申し上げておきたいと思います。

加えて幼い時期からの体験という取組みがなされています。以前ですと学校単位で乗り方教室等も頻繁に行われていましたから、そういったことが地域としても根付いていたのだらうと思っていますが、今は少し薄くなってきましたので、このことが継続されることを求めています。

ただ担い手の確保という角度から言うと、みなさんもお存じだと思いますが、子供たちも、だいたいランドセルが黄色いうちは「電車の運転士さん、あるいは

バスの運転さんになりたい」と言いますが、ランドセルの色が変わったりすると、ランク外になっていきます。これは非常に大切でして、実際に今現場では、満たされた感は一切ありません。事業者さんも魅力を伝えるいろんな取組みをされていますが、我々は現場としては、ここだけの話、どこに魅力があるのかと思ってしまい、そんな実態です。ぜひこのあたり、労働の価値をどこに向けるか、労働者の価値はどこにあるのか、このあたりは非常に大切なのだらうと思っています。

時に労働者・従事者といってもいろんな動きがあるのですが、一部の事業者に勤める方からお話を聞くと、非常に批判的なことをぶつけられたりする場面もあったと。ともすればそういったことが家族にも不安を与えているということも切に聞いておりますので、労務的にいうとこれが現場がもたない原因にならないかと心配をしているところです。我々労働組合の立場ですので、そういったこともきちんと向き合って、従事者の心に寄り添っていきたいと思っていますし、従事者も時に心が折れる場面があることもお伝えさせていただきます。

そういうことで言うと、事業者と我々労働組合は、昔は要求するものと要求されるものだったかもしれませんが、経営者の皆さんよりも、それぞれの事業、会社、自分が勤めているところに対しての帰属意識が薄くなったのではないのかという声もありますが、永続的・継続的にその生業を自分たちは強く気持ちを持って行っているということ、それは従事者の方が強いのではないかと思いますので、なかなかこの会議の中では従事者に目線が向けられていませんので、ぜひそのあたりをきちんとお伝えをしたいと思っています。

事業・仕事の価値は結果的に従事者が働く価値につながって、社会的な地位につながりますので、ぜひそのあたりを総合的に見ていただければというふうに発言をさせていただきます。ありがとうございました。

●石井会長

ありがとうございました。

続きまして自治体関係の方。富山市の美濃部委員、よろしくお願いします。

●美濃部委員

富山市の美濃部です。

公共交通に乗ることが便利だということを子どもたちに実感してもらうために、今年度「アオハルライドパス」という取組みを行っています。ずっと続けていこうと思いますが、小学校を卒業する時に、1万円の入った「えこまいか」を卒業生全員に渡すという取組みです。

中学校に入学すると大人料金になるので、大人料金が引かれるタイプのカー

ドを配布するのですが、今このカードのデザインができあがりまして、これから印刷することになっております。そういった取組みを紹介させていただきます。
以上です。

●石井会長

ありがとうございました。素晴らしい取組みをしていただいて、是非よろしくお願い申し上げます。

それでは高岡市の竹内委員、よろしくお願いします。

●竹内委員

高岡市の竹内と申します。

高岡市でも令和 5 年度に市の地域公共交通計画を策定しまして、その中では鉄軌道であったり路線バスといった骨格的な公共交通と、これらを補完する形で市民協働型の地域交通システムをあわせて、市域全体の移動利便性を高めていくとしています。我々は「高岡型コミュニティ交通」というふうに申しておりますが、これの確立に向けて施策を進めているところです。市民協働型地域交通システムについて取り組む地域も徐々に増えてきていまして、そういう意味で少しずつ前に進んでいると思っております。

ただ一方で、申し上げました骨格的な公共交通の鉄軌道やバスの運営をしていただいている交通事業者さんとお話をさせていただくと、やはり人材不足・運転手不足、これは全国的な課題だと思いますが、今のサービスを維持していただくだけで精一杯だという声も伺っているところです。例えばこの富山県地域交通戦略の成果として、今後利用者がどんどん増えていく状況になったとしても、担い手不足が原因で交通サービスを維持することすら難しいということになる、そういった事態は避ける必要があると思います。

我々自治体としても、こういったことについて何ができるか考えていきたいと思ひますし、ぜひこの会議においても、今も取り組んでいただいておりますが、先を見据えた課題としてお考えいただければと思ひているところです。

以上です。

●石井会長

ありがとうございました。

続きまして上市町の小竹委員、よろしくお願いします。

●小竹委員

よろしくお願いします。本日資料を持ってきましたので、「上市町提供資料」

をご覧くださいけたらと思います。

富山地方鉄道が町内を運行しておりますが、滑川駅までは自社の努力でやっていただくという決断をしていただきまして、まず誠に感謝をしております。そこに甘えるつもりは全然ございませんので、私どもも一生懸命利用促進をやりたいと思い取り組んでいるものを紹介できればと思います。

まず町民に対してですが、毎月発行している町報があります。そこで先月号ですが、公共交通をぜひ利用してほしいということで、巻頭ページ見開きですが、こういうものを皆さんに配布したということがあります。

それから 3 ページですが、今絶賛公開中の、上市町出身の細田守監督の映画『果てしなきスカーレット』という作品がありますが、それと、上市町が舞台になった『おおかみこどもの雨と雪』、これらをカード表面に印刷した特設 IC カード「えこまいか」が、いよいよ明後日発売予定となっております。限定 500 枚ですのでぜひお買い求めいただければと思います。

そして次ですが、今ほど人材不足のお話もありましたが、上市町には「地域おこし協力隊」がたくさんおられるのですが、公共交通をテーマにした「地域おこし協力隊」を今募集しております。この期間中には大型二種免許の取得も支援させていただきたいと思っていまして、ゆくゆくは富山地方鉄道の電車かバスかは分かりませんが、そういった担い手としても働いていただけることを期待しています。

最後になりますが、5 月に「カミ鉄の旅」ということで、富山地方鉄道の電車を貸し切らせていただいて、富山まで来て、それから滑川の中村まで行きましたが、そういうイベントを開催しまして大変大好評でした。今度は上市から宇奈月に行くイベントを吉本芸人とともに 2 月 22 日の開催予定です。1 回目のイベントも大変たくさんの応募がありましたので、皆さんぜひご参加いただければと思っています。

これ以外にも、上市高校生に授業の中で公共交通のことを考えてもらったり、上市駅をクリスマスムードでデコレーションもしていただいたりしています。できる限り、いろんな知恵を絞って利用促進に努めていきたいと考えております。

以上です。

●石井会長

ありがとうございました。上市町さんにおきまして、素晴らしい取り組みをどんどん続けていただきまして、本当にありがとうございます。

まだまだ委員の皆様からたくさんご意見を賜りたいところですが、定刻の時間が迫ってまいりましたので、この辺で意見交換を終了させていただきたいと

思います。なお、皆様からの補足や、今日ご発言いただいていない委員の皆様もおられますので、ご意見、ご質問、ご提案等ございましたら、事務局の方に何なりとお申し付けをいただければ、事務局と私の方で対応をさせていただきますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

委員の皆様には貴重なご意見を賜りましたことに感謝申し上げます。それでは簡単に本日の会議の取りまとめをさせていただきたいと思います。

1つ目は、戦略の策定後、様々な取組みが今進捗しています。高い目標を掲げて「投資」・「参画」には意欲的に、県全体として新田知事のもとで精力的に取り組んでいます。目標達成に向けてこうした動きを止めないことが大事であるという力強いお言葉を委員の皆様からもいただきました。また、できるところから速やかに取り掛かることが大事ですので、そこも大変評価したいところです。

また本日は各委員の皆様から、本当に前向きな、そしてまたすぐに対応しなければならない重要事項についても多数ご意見を賜りました。特に、担い手不足・担い手の確保に向けた「投資」、これも緊急を要する課題であると認識されております。また、駅を中心としたまちづくり、県民の「参画」、利用促進などの視点からのご意見も多数ありました。

本日は新田知事にもご臨席いただいておりますので、ぜひ今日のご意見を、県の来年度の取組みにもしっかりとつなげていただけますように、心からお願い申し上げます。また本日お集まりいただきました市町村や関係者の皆様にも引き続き、地域公共交通サービスへの積極的な関与、また「参画」をお願い申し上げます。

4 閉会

●石井会長

それでは本日の会議は以上ですが、新田知事、全体を通じてコメントをお願いできれば幸いです。知事よろしくお願い申し上げます。

●新田知事

石井会長、また委員の皆様、長時間にわたりありがとうございました。

「富山県地域交通戦略」、皆様と共に策定したこの戦略です。15市町村全てに鉄軌道が通っているという富山県の特徴であり強み、これを活かしていこうということでこの戦略ができたわけですが、ご報告申し上げましたように、目標としておりますKPIも少しずつですが着実に上向いているということ、「県民一人当たりの地域交通利用回数 年間 50 回」の目標に対して 43.7 回、まだコロナ前には届いていませんが、着実に上がってきているということ、これを本当に嬉

しく思います。他の KPI についても着実に上がっていることを今日ご報告申し上げたところです。

ちょうどこの戦略の策定と期を同じくして、「城端線・氷見線鉄道事業再構築実施計画」を国土交通省ご当局に認めていただいたところです。こちらの方は今、再構築実施計画に基づいて着実に進めており、今日もご報告申し上げましたが、近々 IC カードの利用ができるようになること、また新型車両、ハイブリッド型気動車、斬新なデザインで今設計を行っているところです。これからは、ホームのかさ上げだとか、線路やまくら木の更新といったハードな仕事も出てまいります、これについても JR 西日本さんと力を合わせて着実に取り組んでまいりたいと思っています。

そして昨日県議会が終わったところですが、県東部の大切な県民の皆様の足である富山地方鉄道さんの鉄軌道に今焦点が移ってきています。これについては沿線の 7 市町村の皆さんのいろんなご意見もあるところですが、私は迷った場合は常にこの「富山県地域交通戦略」に戻って判断をするようにしています。これからもこの戦略に基づいて、本当になかなか大変な議論になっていくとは思いますが、富山地方鉄道さんの鉄軌道線が持続可能であるために議論を進めてまいりたいと思います。

ただ何十年もかかって富山県のこの自動車社会というものは出来上がってきたわけですし、ここからこの公共交通を基本にした県民の生活、意識の変革、またライフスタイルの変容というのはなかなか大きな仕事だというふうに思いますが、改めてこの戦略に基づいて着実に進めていきたいと思っています。

どうか委員の皆様には引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

今日は本当にありがとうございました。

●石井会長

新田知事、どうもありがとうございました。引き続きよろしくお願い申し上げます。

それでは本日の議事は全て終了いたしました。